

事例紹介①

(ア) NPO法人キャンヘルプタイランドの国際協力の取り組み

スタディツアーにおけるNGOと高校教員による共創

特定非営利活動法人 キャンヘルプタイランド

タイやカンボジアの教育環境に恵まれない子ども達の支援
奨学金支援、校舎やトイレなどの建設支援、学生寮支援など
有給スタッフ0の極小NGO ボランティアスタッフ5名

カサロンの家

- ・ 山岳部で暮らす民族のための学生寮（チェンマイ）
- ・ 2005年にキャンヘルプタイランドが建設し、YCFが運営
- ・ それから、20年以上の支援と交流が続いている。

ユースチャリティ財団（YCF）

- ・ エイズ孤児院「希望の家」をタイ北部チェンマイで運営
- ・ 開設当初は大森絹子さんが指揮を執っていたが、肺がんで死去
- ・ ひとり残されたタッサニーさんが来日し、支援団体を探す
- ・ 名古屋でキャンヘルプタイランドを見つけ、交流開始（2003年）

津島高校とキャンヘルプタイランドがつながるきっかけ

- ・ 2017年?に愛知大学の職員の方が名古屋市主催の「ぼらマツチ」でキャンヘルプタイランドの活動に興味を示してくれる
- ・ 2018年?に愛大職員と教員がタイ現地視察
- ・ 2018年8月に愛知大学の学生を連れてカサロンの家へ
- ・ 2019年8月に第2回のボランティアツアーを開催
- ・ 2020年から2023年はコロナ禍で中止
- ・ 2024年に愛大ボランティアツアー復活
- ・ 2025年2月に愛大職員と津島高校の教員3名が現地視察
- ・ 2025年、津島高校と愛知大学が高大連携事業として、タイ・ボランティアツアーを開催 高校生9名、大学生21名が参加

NGOと教育機関の共創

キャンヘルプタイランド(NGO)にとって

現在まで培ってきた現地との繋がりを活用でき改めて
存在意義を確認 寮の運営資金援助

津島高校(教育機関)にとって

NGOの草の根ネットワーク利用することで、研修先を
新規で探すコストを抑え、現地の信用も担保される

学生にとって(日本もタイも、高校生も大学生も)

新しい視点 → 新たな価値観

NPOキャンヘルプタイランドの目標

「質の高い教育をみんなに」



それは、教員も同じ → だからこそ共創できる